

日時：令和6年6月1日 13:00～15:00

場所：ペンションぼらりす

参加者：新井さん、五十嵐さん、池田さん、板垣さん、大庭さん、金川さん、北林さん、篠原さん、富田さん
ご夫妻、馬場夫妻、三上さん、山本和さん（50音順）（報道：北海道新聞 高橋力記者）

議事次第

1. 開会のご挨拶
2. 総会参加者自己紹介
3. 祝電披露（田中 英樹 北海道議会議員より頂きました）
4. 発足の経緯の振り返り（資料 2P）
5. 弟子屈町の星空の星空についての最新情報（資料 3～10P）
6. 星空保護区とは（資料 11～12P）
7. 活動趣旨のおさらい（資料 13P）
8. 2023年度の活動報告（資料 14～20P）
9. 2024年度の活動について（資料 21～23P）
10. その後の活動について（資料 24P）

【重要決定事項】

会費について

- ・去年の発足会にて、年会費は3000円としておりましたが、「誰でも気軽に参加してもらえるように。」という思いから、年会費1200円に変更となりました。
- ・資料23Pに2023年度分の会費は、「会費なし」となっておりますが、皆さまの温かいお言葉を受け、2023年度分も徴収させていただくこととなりました。

【質疑応答、意見交換】

Q：資料4Pの、「夜空の明るさの経年変化のグラフ」について、夏と冬では夏の方が夜空が暗く見えるのはなぜか？

A：冬は雪に反射して、空が明るくなるため。

意見：資料4Pの、「夜空の明るさの経年変化のグラフ」について、星の数などをグラフ化した方がわかりやすいのではないかと。

回答：そちらの方がわかりやすいと思う。測定した年の違いなどもあるので、難しいところではあるが、より伝わりやすいグラフにしていきたい。

※総会の時言い忘れたのですが、デジカメ星空診断によって、空の暗さを客観的に測れるという説明は必須なので、どのようなロジックで説明するか苦慮中です。。夏冬の結果を分けて表示するとか、色々探っていきたいと思います。

Q：資料 9P の「星が見える町のもうちょっと細かいイメージ」について防犯上の問題はないのか？

A：ない。光害対策は、安全性を担保したうえで行うもの。

Q：星空保護区や光害対策に対する、弟子屈町の理解度は？

A：全く理解していない。自分たちから勉強しようという雰囲気にもなっていないため、さらなる働きかけが必要。

Q：資料 11P の「星空保護区とは」について、弟子屈町を星空保護区に登録するにあたり、どのくらいのスケールで登録するのか？町の中の一部を登録するなどにはできないのか。

A：ダークスカイインターナショナルとの相談のうえ決定となる。

※総会中に細かく話せなくてすみません。流れとしては、まず、ダークスカイ日本支部や、ダークスカイ本部と協議をしながら、「弟子屈はどのカテゴリを目指せるのか？」ということを話し合っていきます。各カテゴリに星空に関する条件の違いがあるので、これをクリアしていかないといけません。なので、今は何とも言えない。。。という回答になってしまいます。私たちとしては、より広域を登録し、他の自治体も巻き込んだ形でできるといいなと思っております（野望レベルの話です）。

意見：資料 24P「その後の活動」について、川湯の開発や、中心市街地の複合施設によって、夜空の明るさが損なわれてしまうのを懸念しているなら、中心市街地のワークショップなどにみんなで出て、「照明を工夫して、夜の環境に配慮してほしい。」と意見を出してみてもどうか。

回答：大賛成。馬場夫妻はどちらのワークショップも出ているが、もっと会員さんに、参加を呼びかけていきたいと思う。

意見：資料 24P「その後の活動」について、観光協会が取り組んでいる「星降るレストラン」のように、星空に少しでも気を使っている宿などを集めて紹介できるような取り組みをしてみたらどうか。連携をしてみようか。

回答：観光協会の中で、そういったことができないか呼びかけ中（時間がかかりそう）。自分たちで立ち上げることも考えたが、みんなで取りこぼしなく、広く周知したいという思いから、既存の枠組みを活用した方がいいと思ったので、観光協会の中で準備している。

意見：弟子屈高校で、講演や観察会をしてはどうか。

回答：ぜひやりたい。えこまちの人材育成部会などで少し話しているが、地域みらい留学などにも関わりたい。その時は、皆さまのご協力、よろしくお願い申し上げます。

以上